

2. 火山の概況

(平成 16 年 5 月 13 日 ~ 平成 16 年 5 月 19 日)

草津白根山では、湯釜火口で湖水が吹き上がる現象が報告され、変色水が確認された。

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は2。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

桜島では爆発があった。レベルは2。

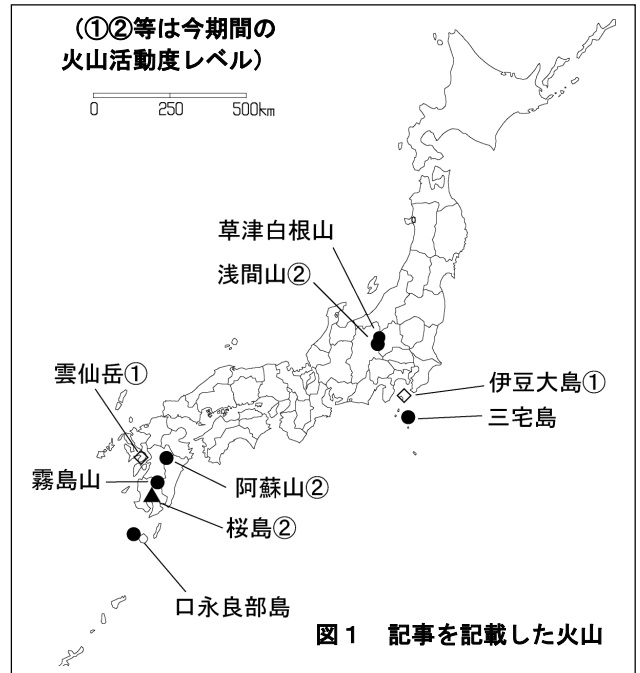


図1 記事を記載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		十勝岳	草津白根山	伊豆東部火山群	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号									
21	5/13-5/19	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲		●				●		●	
20	5/6-5/12	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●			●			●		●	◆
19	4/29-5/5	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲			●	●	●	●	▲	●	▲
18	4/22-4/28	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	◆		●	●		●		●	▲
17	4/15-4/21	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	▲			●		●	▲	●	

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載した火山の、その後の状況等
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

● 草津白根山 [湖水の吹き上げ・変色水]

自然公園財団草津支部からの情報によると、17日10時頃湯釜の西縁で音響とともに湖水が最大4~5m吹き上がる現象を観光客が目撃した。東京工業大学火山流体研究センターが同日11時過ぎに行った現地調査では、湯釜の西縁と中央部の湖面が茶色~黒色に変色しているのを確認した。同日12時過ぎに自然公園財団が観測した際には、湖面の変色は確認できなかった。気象庁及び東京工業大学の地震計では、09時53分に継続時間15秒のごく小さい火山性微動が観測されており、この現象と関連している可能性がある。草津白根山では、1997年5月に、湯釜火口西側で火山ガスが急激に噴出し湖水面が盛り上がる現象が確認されている。

また、19日の05時54分頃から夕方頃まで、山頂の北西約10km付近で地震が多発した。期間中最大の地震はM(マグニチュード)3.2(暫定)で、震度1以上となる地震が4回観測された。震源の位置が山体から離れていること、微動や低周波地震が発生していないこと、噴煙の状況や地殻変動観測に特に変化が見られないことから、この地震活動は直接火山活動に関連するものではないと考えられる。

● 浅間山 [地震・微動・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

振幅の小さい地震は、昨年6月末頃からやや多く観測されるようになっており、今期間も1日あたり10~35回とやや多い状態が続いた。また、振幅の小さい微動が3回観測された(前期間は1回)。

赤外線カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、引き続き火口底に高温部が確認された。

◇ 伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・熱・火山ガス・地震]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上 400m であった。

18 日に行った上空からの観測¹⁾では、火口から白色噴煙が連続的に噴出し東に流れていた。火口内の状況に大きな変化は見られなかった。赤外線カメラによる火口内の最高温度は 271℃ であった。また、火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 7,400～9,800 トンで依然多い状態であった（図 2）。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1 日あたり 26～77 回とやや多い状態で推移した。

GPS による地殻変動観測では、昨年 6 月頃から始まった三宅島の収縮傾向が継続している。

1) 陸上自衛隊の協力による

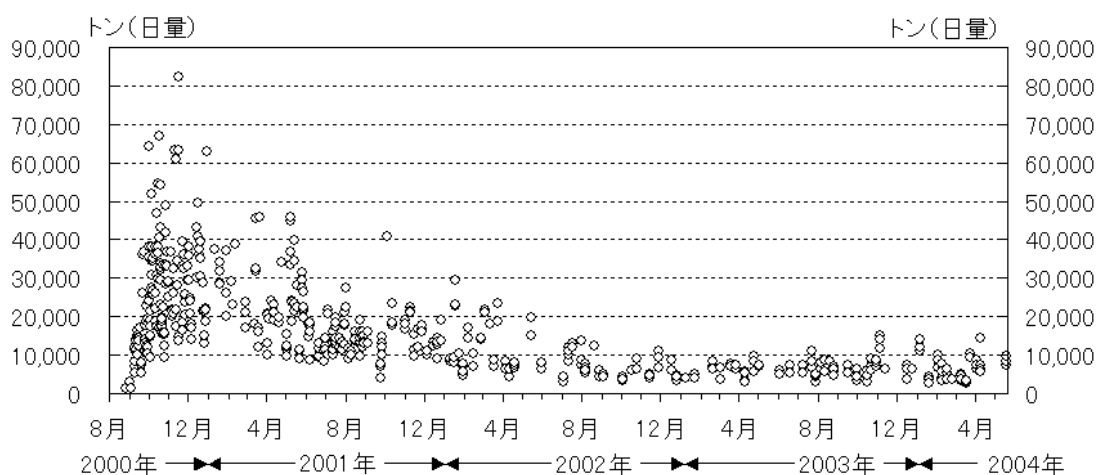


図 2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000 年 8 月 26 日～2004 年 5 月 19 日）

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2（やや活発な火山活動）

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

18 日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約 4 割で、湯だまりの表面温度の最高は 72℃（前期間 78℃）、火口壁の最高温度は 395℃（前期間 429℃）と依然高温状態にあった。湯量が増えたのは降水の流れ込みによるものであり、前期間及び 14 日の現地観測では約 3 割であった。湯だまり中央部で高さ約 5m の、その他数ヶ所で 2～3m の土砂噴出が観測された。

期間中、火山性微動はほぼ連続して観測された。また、孤立型微動は今期間 572 回発生し（前期間は 486 回）、依然としてやや多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上 400m（前期間 400m）であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

18 日及び 19 日に御鉢で火口縁を越える噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上 200m であった。

▲ 桜島 [爆発・噴火] レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火が 3 回あり、その内 2 回は爆発であった（前期間は噴火なし）。15 日 11 時 07 分の爆

発では、爆発音、体感空振共に気象庁が観測している大きさ及び強さの階級²⁾で3を観測した（爆発音の大きさ3を観測したのは2000年3月20日以来、体感空振の強さ3を観測したのは2002年10月20日以来）。この爆発では噴石が8合目まで飛散した。噴煙の高さは火口上500mで雲に入りそれ以上は不明であった。

期間中の噴煙の高さの最高は、17日10時46分の噴火に伴う火口上900m（灰白色）であった。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、昨年11月19日を最後に降灰は観測されていない。

2) 気象庁が観測に使用している爆発音の大きさ及び体感空振の強さの階級

爆発音の大きさ

階級	解 説
1	注意深くしていると聞こえる程度
2	誰にも聞こえる程度
3	非常に大きく聞こえる程度

空振の強さ

階級	解 説
1	戸障子がかすかにゆれ、注意深くしていると感じる程度
2	誰にでも感じる程度
3	戸障子、窓ガラスなどが激しく震動し、時には破損することもある程度

● 口永良部島 [地震]

地震の発生は、2月2日に多発して以降増減を繰り返しており、期間中の合計は29回であった（前期間は68回）。火山性微動は発生しなかった（前期間は1回）。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
草津白根山	臨時火山情報第1号	19日 07:45	地震が多発し、火山活動が活発になっている。
	火山観測情報第1号	19日 08:55	多発した地震は、震源が山頂火口から離れており、火山活動との直接の関係はなし。
三宅島	火山観測情報第264号 ↓（1日2回発表）	13日 09:30 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第277号	19日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第28号	14日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（連続微動発生、小規模な土砂噴出多数発生、湯だまりの高温状態継続）。レベルは2。